

研究室紹介

毎回2研究室を順次紹介していきます。

建造物研究室（文化遺産研究部）

これまで孤立していたかのような建造物研究室は、この4月に新しい組織になって生まれた文化遺産研究部に所属する三つの研究室のひとつとなりました。現在のところ人に移動はなく、研究のめざすところや役割も以前から定まっています。独立行政法人化にあたり5ヶ年の研究計画と予算計画をたて、この目標にそって活動することになったのです。

5ヶ年計画に挙げた研究は大きく分けてふたつあります。

ひとつは、古代から近世に至る伝統建築、集落・町並み、近代建築、近代化遺産など、歴史的建造物全般の基礎調査とその保存修復についてであります。とくにこの5ヶ年の間に、これまで続けられてきたわが国の歴史的建造物保存修復の考え方や手法を明治期までさかのぼって探り、これからの保存に活かすために分析してその結果をまとめることにしています。

もうひとつは、文化庁が奈文研から替わって直接おこなう平城宮第一次大極殿および大極殿院の復原



五分之一構造模型による復原第一次大極殿の検討

事業に対する学術面の指導・助言、さらにはそれらの基盤となる古代建築の総合研究です。復原事業はまさにこれからが本番で、設計や施工段階での細部の研究から復原の具体的な方針にいたる検討などの場面では、これまで研究をおこないながら復原事業をすすめてきた奈文研の研究者の参加がますます必要となります。

建造物研究室はこのような研究を活かし、地方自治体が実施する建造物の基礎調査、集落・町並み調査、近代化遺産の調査などに参加するとともに、建造物の保存修復事業や遺跡の建造物復原事業にも関わっています。

研究室は技官2名と奈良県から文化財修理技師を迎えた3名体制ですが、他の部局の5名と韓国から受け入れた研究員1名を加え、全部で9名が建築関係研究者として活動しています。